

製品名: CaMKII δ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07890**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMK2D
別名	CAMK2D; CAMKD; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit delta; CaM kinase II subunit delta; CaMK-II subunit delta
遺伝子 ID	817.0
SwissProt ID	Q13557
免疫原	ヒト CaMKII δ の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

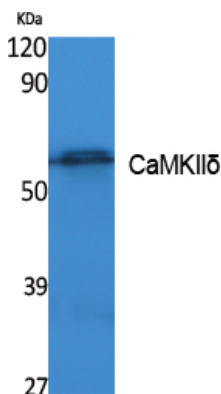
この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーおよび Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブ

ファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸作動性シナプスの可塑性のいくつかの側面において極めて重要である。哺乳類細胞において、この酵素は α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子産物は δ 鎖である。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。この鎖の異なるアイソフォームは、異なる発現パターンを示します。[RefSeq 提供、2008年11月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。酵素調節: CAMK2 の自己リン酸化は、キナーゼ活性の調節において重要な役割を果たします。機能: CaM キナーゼ II (CAMK2) は、中枢神経系の重要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質の放出に機能する可能性があります。その他: CAMK2D の発現は、拡張型心筋症の患者で有意に増加しています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CAMK2 は、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。異なるアイソフォームは、8~12のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。組織特異性: 心筋および骨格筋に発現する。アイソフォーム Delta 3、Delta 2、Delta 8、Delta 9 は心筋に発現する。アイソフォーム Delta 11 は骨格筋に発現する。

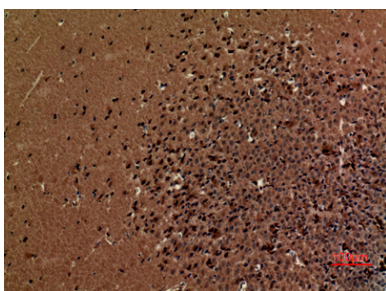
研究分野

ErbB_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

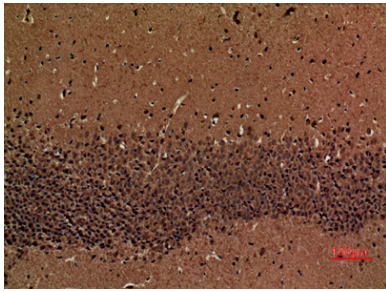
画像データ



CaMKII δ ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された